

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170200473		
法人名	介護サービス九州株式会社		
事業所名	つくしんぼのグループホーム唐津		
所在地	唐津市和多田大土井2番35号		
自己評価作成日	令和5年11月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市天神一丁目4番15号		
訪問調査日	令和6年1月12日	外部評価確定日	令和6年3月4日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様が自然なかたちでの自立支援、自己選択、自己決定、予防「生活療法」を行えるようにしています。看取りを行い、利用者様とご家族様が最期まで安心して暮らせる事業所を目指しています。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>閑静な住宅地の中にある古民家改修型グループホームである。居間の窓からは唐津の名勝地である鏡山が見える。また施設の前には松浦川の河口がひろがっており、施設を始めて訪れた人は景観の良さに感嘆される。中に入れば広い廊下と畳の部屋、そして縁側がある。利用者にとって昔懐かしい雰囲気があり、落ち着いて過ごすことができる。職員にとっては使い勝手の悪い箇所も多いが、そのことを負ではなく前向きにとらえ様々な工夫で解決している。入居後は利用者、職員は一つ屋根の下で暮らす家族だと考え、最期まで支援することを常としており、これまでも看取りを複数回経験している。</p>
--

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を各職員が理解し、母体の理念、事業所理念を唱和し実践につなげています。	事業所理念は開設初期に当時従事していた職員みんなで考えたものである。現在もその思いは引き継がれている。毎朝の朝礼で唱和し、1日が始まる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃作業やイベントに参加しています。運営推進会議にも近隣の方や駐在員に参加して頂いていましたが、コロナ感染状況により現在は少人数で開催しています。状況を見て参加人数を増やしていきます。	自治会に入っている。毎月届く回覧板で地区の情報を得ることができる。以前は公民館で行われる地区行事には出かけていたが、協力医の指導もあり、感染症予防の観点から人ごみの中への外出は控えている。管理者は認知症サポーター研修を当施設で開催し、地域に貢献したいという思いがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は事業所内外の研修やリモート研修に参加し、認知症の方の理解、支援の方法を学んでいます。運営推進会議でも認知症の方の理解や支援方法を伝えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の状況をありのまま報告しています。事故、ヒヤリハットの報告では、厳しい意見や質問、アドバイスを頂いています。貴重な意見やアドバイスはサービスの改善と向上に向けて取り入れています。	運営推進会議の構成員は、本人、家族、地域の代表者、行政担当者などとなっているが、感染対策の意味からも行政担当者だけの会議となることもあったが、令和6年度からは地域の代表者や家族へも声をかけていく予定である。行政担当者からは他の施設で工夫されている事例など教えてもらい、実践に繋がることもある	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	メールや電話、訪問等で協力体制が出来ていると思います。事業所での事故発生や実情等報告し、担当の方から意見や支持を頂いています。	地域包括支援センターや生活保護課等から入所についての相談を受け、入所に繋がる事例がある。認知症サポーター研修など行政担当者から助言や指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関は解放しています。身体拘束等防止のマニュアルを作成し、事業所内外で研修に参加し理解を深めています。身体拘束等を行わないケアを実践しています。	法人全体での研修(2か月に1回実施)、事業所での毎月の勉強会などで、身体拘束、虐待、高齢者の人権についての学習の機会は多い。利用者を理解することから始めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内外の研修に参加し理解を深めています。利用者様への声のかけ方、対応の仕方等、職員会議で意見を出し合い話し合っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内外で研修に参加し理解を深めています。利用者様に必要な時は活用出来るように支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	懇切丁寧に説明しています。不明な点は、いつでも、電話、携帯電話、メール、LINEで問い合わせが出来るようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には、日々のケアの中で要望、希望等を聞き、可能な事は実践しています。ご家族に関しては、面会時、訪問時に利用者様の状態と日々どんな生活をされているのかをお伝えしています。ご家族からも支援の要望を聞き、可能な限り実践しています。	情報交換のツールの一つとしてラインを活用している。文字だけでなく写真や動画を送れるため好評である。利用者本人の自筆で作成した年賀状や暑中お見舞いは恒例となっている。玄関にはご意見箱が設置されている。利用者の暮らしの様子を写した写真はアルバムに整理され、家族に手渡されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、朝礼時、日々の業務時に職員の意見や提案を聞き、話し合い、運営に活かせるように検討しています。	法人代表者の不定期な事業所への訪問は月に1~2回ある。コロナ禍前は会食会が行われていた。2か月に1度は法人全体の研修会もあり代表者と職員との間には顔の見える関係が築かれている。反映された事例として、乾燥機の不具合を相談し、ガス式の乾燥機械をレンタルで設置ができた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休日の希望、夜勤の希望等を聞き、勤務予定表を作成しています。職員の努力や実績は、ボーナス、処遇改善に反映しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員とも事業所内外で研修に参加しています。日々のケアについて不安な面、疑問な点については、その都度話し合い、良い方法を考えて実践し、少しでも解決出来るようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	唐津グループホーム連絡会に入会し、研修、会議、交流会に参加しています。他事業所へ見学に行き、良いところを当事業所のサービスに活かしています。災害警報時は避難状況等、連絡を取り合っています。空室状況を共有し紹介し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者様とお会いし、ご家族、ソーシャルワーカー、ケアマネージャー等に情報を聞き、情報書類を頂いています。入居前に職員へ情報を伝えて、安心して暮らせる環境づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の利用者様への思いや要望を聞き、可能な限り取り入れ、安心して頂けるように努めています。心配事や問い合わせ等は、電話、携帯電話、メール、LINEでいつでも連絡可能な体制にしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極めケアプランを作成しています。その都度、必要とする支援を臨機応変に行えるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所理念を念頭におき、我が家のように、家族のように、暮らしを共にする関係性を築くように努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会や外出で、利用者様と、ご家族の絆を大切に、ご家族と一緒に利用者様を支えています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と外出される方もいます。必要な時は職員が同行し、ご家族のもとへ外出しています。親戚、知人の面会は、キーパーソンの許可を得て了承頂き、面会対応しています。	外出の機会は増えてきた。退所された利用者が家族とともに遊びに来られることもある。介護タクシーを使って利用者の馴染みのところに出かけることもある、また病院受診の帰りに馴染みのところに立ち寄ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は、なるべく皆が集まる居間で過ごして頂いています。体操、レクリエーション、談話等を行い、職員が見守りのもと、利用者様同士の関わり、支え合える環境をつくっています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた方、他施設へ行かれた方のご家族から、時々連絡頂いたり、訪問して下さったりして、その後の状況を伺い知ることが出来ています。不要になった物を提供して頂いたり、関係も継続しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、利用者様の表情や会話の中で希望を聞いています。ご家族の話しからでも思いを感じとるようにしています。	認知症という疾患の特性から、その時々で思いは違ってくる。そのことを理解し、その時の思いを汲んで支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前は、利用者様、ご家族、ソーシャルワーカー、ケアマネジャー等から情報を聞き、入居後は、利用者様、ご家族との関わりの中で知ることがあり、ケアに役立たせています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で、表情や訴え等で体調変化を把握し、一日の過ごし方を変えています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族との関わりの中で、思いや要望を聞き、全職員で情報収集、意見交換、モニタリングを行い、必要であれば多職種へ意見を聞き介護計画を作成しています。	介護計画者は利用者、家族と面談したり、職員からの情報をもとに作成している。入所時には入院先や在宅に出かけカンファレンスに参加することもある。継続時の介護計画は、感染症対策のため担当者会議の開催を控え、書面で了解を得る期間もあったが、今後は開催したいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を個別に記録し、職員同士で情報を共有し、ケアの仕方を変更しています。必要な時はケアプランを変更しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、ご家族との関わりの中でその時々生まれるニーズを柔軟に対応できるように勤務体制を工夫し取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の意向や必要に応じて、地域資源を利用しながら支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週の訪問診療で利用者様の状態を把握されています。ご家族にも対面し状態を説明されています。かかりつけ医以外の病院受診は、職員同行し、状態等はご家族へ説明しています。必要時はご家族も受診同行して頂いています。	家族の理解の元、入居後の主治医は施設の協力医となる。初回受診時は協力医に受診し、協力医より十分な説明がある。緊急時には夜間も対応してもらえる。感染症などの医療に関する助言や指導も受けている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の正看護師1名、准看護師が1名います。お互いに情報交換を行い、状態変化の早期発見に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に、かかりつけ医と連携を図り、入院時には情報を提供し、入院中はソーシャルワーカー、看護師と連絡を取り合い、現状確認と退院調整を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様、ご家族の思いを聞き、かかりつけ医、多職種、全職員で話し合い、必要であれば看取りの支援に取り組んでいます。	事業所での看取りについて、利用者や家族の希望に沿った支援が実践されている。看護師、認定特定行為業務従事者(喀痰吸引の研修を受け、実施可能な介護員)の資格を持った介護員がいる。利用者や家族の希望で訪問看護を導入した事例もある。最期を看取りエンゼルケアまで行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止マニュアルに沿って、研修や誤嚥時の対応、心肺蘇生等の訓練を行っています。ケガ時の対応、誤嚥時の対応、心肺蘇生訓練については、定期的に消防署員の方の講習を受けています。		



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルをもとに、環境整備等にも気を付けています。年2回以上の避難訓練、防災訓練と毎月、緊急時の対応、避難時の対応を確認しています。	訓練の内容は火災、水害、心肺蘇生、誤嚥、原子力防災訓練など多岐にわたっている。原子力防災訓練は市役所の危機管理室の担当者から講義を受け、具体的な相談もしている。避難場所についても消防署や高齢者支援課に相談している。居室には避難時に使うヘルメットが常備してある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様、一人一人にあった分かりやすい言葉づかいや、声掛けを心がけて対応しています。	人格の尊重やプライバシーについて、研修を行い全職員の理解を深めている。古民家ということもあり、トイレや浴室のスペースが狭く、手助けに苦慮することもあるが、工夫をしながら介護が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望を取り入れていますが、迷われる時は、自己決定できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の状況や状態に合わせて支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった服装、好まれる服を利用者様や職員が選んでいます。身だしなみは、自身でされている方、職員が行っている方がいます。外出時は化粧を希望される方は支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いやアレルギーを把握し代替えを提供しています。希望の食べ物や漬物を購入しています。それぞれの方の嚥下状態、咀嚼状態にあった形態に変更し提供しています。職員と一緒に楽しみながら食事の準備を行っています。	母体法人が行っている配食事業による食事を提供している。日曜日は配食はないため事業所の職員と利用者が共に作っている。利用者の意見を聞きながらメニューを決めている。できるだけ地元の食材、旬の食材を使うように心がけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の活動量、病状に合わせて、かかりつけ医、看護師と相談しながら、カロリー、水分量を提供しています。食事、水分の摂取量を記録し、脱水予防にも努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時のうがい、毎食後の歯磨きを行っています。歯科医師、歯科衛生士の助言を受け、利用者様にあった器具を利用し、感染予防にも努めています。歯の治療が必要な方は、利用者様、ご家族の希望する歯医者を利用しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄状況を把握し記録している。必要な方は、トイレまでの誘導や介助で支援しています。布パンツの方も、時々失禁されるが、布パンツを継続しています。	利用者の身体状況に合わせた排泄支援が行われている。紙おむつ使用者から布パンツ使用者が居られる。紙おむつの購入は地元の業者からの配達、特殊なものは職員が買い出しに出ることもある。職員は排泄の介助はデリケートな問題であることを認識している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を理解し、適度な運動、飲食物の工夫をしているが、上手くない利用者様は、かかりつけ医へ相談しています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	2日に1回の入浴を行っています。利用者様の希望があれば毎日可能にしています。体調、病状、状況に合わせて支援しています。入浴日でない方は陰部洗浄、清拭、足浴、着替え等を行っています。	古民家改修型の施設のため浴室の環境も介護に適したものではないが福祉用具を活用しながら行われている。二人介助が必要な利用者もある。また同性介助を希望される利用者には希望に沿っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況で就寝時間が変わります。一人一人に合わせた就寝時のケアを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が常に、お薬ノートを確認出来るようにしています。一人一人の服薬を把握し、当日の服薬は朝、昼、夕と事前に準備しています。服薬後は空の袋を確認し、チェック表に記録しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が、それぞれに楽しみながら、できることを見つけ、やりたいことを聞き、支援しながら実践しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、遠出の外出、カラオケボックス、買い物は減りましたが、人混みが少ない場所へのドライブ、近隣への散歩は行っています。医療機関の受診時を利用し、ドライブ、買い物、散髪等も行っています。歩行が出来る方は、ご家族と外出されています。	施設の庭には、季節を彩る植栽があり、利用者は居室の窓やウッドデッキから眺めて楽しまれている。天候の良い日は近くの土手を散歩している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1名の方は少しのお金を自身で持っています。その他の利用者様はお金を持つことはありませんが、欲しい物など利用者様の希望があれば、ご家族へ連絡し、了承を得れば支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1名の方は携帯電話を持っています。家族へ連絡したい等の希望があれば、いつでも電話や携帯電話で話ができるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、施設内を次亜塩素酸水で拭き掃除をしています。随時換気をし、温度や湿度を調節しています。安心して居心地の良い生活ができるように、家具の配置や、施設に咲いている花を飾り工夫しています。	古民家の特性を生かした心地よい空間となっている。華やかな調度品はなく、利用者や職員の動線を妨げるものもない。ロビーにはソファが置かれ、横になって過ごす利用者も居られる。職員もそばに寄り添っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は、居間や食堂で過ごすことが多いが、居室で過ごされる時は、職員が常に居室へ行き、様子、状態を把握しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるタンスや家族写真、仏壇等を持参されています。整理整頓し、居心地のよい空間になるように努めています。	部屋は皆違う間取りである。縁側のある居室、納戸のある居室、大きな窓から植栽の見える居室などそれぞれ特性がある。利用者、家族と話し合いながら居室づくりが行われている。介護用ベッドは施設で準備している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に整理整頓と清潔を心がけ、事故防止、感染防止に努めています。利用者様が生活の中で必要な物は、位置を変えず「できること」「わかること」を妨げないようにしています。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)  
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない